

# 平成 24 年度 健康診断結果の概説

## I. 一般検査項目について

### 1) BMI\*算定(図表 J1-8-1)

\*BMI(Body Mass Index) = 体重 kg / 身長 m<sup>2</sup>

身体計測の受診者数: 675,466 人(男性 448,435 人、女性 227,031 人)

25.0 以上の有所見率: 24.0%(男性 28.1%、女性 15.8%)

18.4 以下の有所見率: 8.4 %(男性 4.9%、女性 15.2%)

BMI は 25 以上と 18.4 以下を「有所見」としています。25 以上の有所見率は前年度より 1.1%(男女各 0.9%、0.6%上昇しており、多くの肥満者が受診している特定健康診査(いわゆるメタボ健診)の効果が見られません。平成 23 年度の特定健康診査における保健指導の全国平均実施率は 13.1%とまだまだ低いので、その効果が現れにくいのだと考えられます。まず受診率を高める努力が必要でしょう。

有所見率の年齢的推移は、男性では 40 歳台後半を頂点とする山形を呈します。平均値も(図表 J1-6-1)に示すように、同年齢層で 24.0%と最も高くなっていて、働き盛りの中年男性の栄養の取りすぎと、運動不足を示唆しています。これに対し女性の有所見率と平均値は、最も低い 20 歳台以降、年齢とともに漸増しています。

一方、BMI が 18.4 以下の有所見率は、男性では若年層から中年層にかけては漸減し、それ以後高年齢層に向けて微増しますが、女性では 20 歳台半の 23.1%を頂点として、高年齢層に向けて緩やかに減少する山形を呈しています。若い女性の「やせ願望」を示唆する所見です。過度のダイエットは虚弱な赤ん坊を出産したり、中年以降に骨粗鬆症を起こす恐れもあり、産業保健職による効果的な栄養指導が課題だと考えられます。